

横浜市市民協働条例の施行状況の検討を受けた取組について

1 趣旨

平成 28 年度の横浜市市民協働条例の施行状況の検討をもとに、平成 29 年度は、条例に基づく「市民協働事業の提案（条例第 10 条）」や、「協働契約（条例第 12 条）」等の制度が、地域で活動する市民の皆様にとってより活用しやすい制度となるよう実践的な支援、取組を行っております。これまでの取組の進捗についてご報告いたします。

2 取組内容

(1) 市民協働事業の提案（条例第 10 条）を促す取組（協働事業の提案支援モデル事業）

ア 協働事業トライアルセミナー「行政への提案カスキルアップ道場」の企画・開催

3 者協働契約（認定 NPO 法人市民セクターよこはま、関内イノベーションイニシアティブ株式会社と市民局）により、同セミナーの企画・募集・開催しています。

セミナーは、横浜市と協働で事業を実施したいと考えている団体（事業の対象となりうる団体）を対象に協働事業の提案制度の趣旨や、行政との対話の仕方、協働事業プランの作り方、プレゼンテーションのノウハウ等を学んでいただきます。この講座の開催を通じ、最終的には提案アイデアの応募を促していくことを目的とします。

【資料 8-2】開催チラシ

イ 平成 30 年度市民協働事業提案アイデアブラッシュアップ助成金説明会の企画・開催

助成金の募集期間中に、協働事業の提案支援モデル事業や助成金の趣旨説明の機会として、説明会を行います。（認定 NPO 法人市民セクターよこはま、関内イノベーションイニシアティブ株式会社と市民局の協働で開催）

第 1 回：平成 29 年 11 月 21 日（火）18:00～20:00 港南台タウンカフェ（港南区）

第 2 回：平成 29 年 11 月 24 日（金）15:00～17:00 シェアリーカフェ（都筑区）

ウ 平成 30 年度市民協働事業提案アイデアブラッシュアップ助成金の募集

助成金募集要項を今回の市民協働推進委員会でのご意見を踏まえ、作成・確定し、11 月 6 日（月）～12 月 28 日（金）にかけて助成金交付団体の募集を行います。

募集受付終了後は、書面審査（第 1 次審査）、公開プレゼンテーション審査（第 2 次審査）を踏まえ、3 月に助成金交付団体を決定します。

（参考）選考から助成決定までの流れ

募集受付期間	11 月 6 日（月）～ 12 月 28 日（木）	応募書類の提出に先立ち、横浜市市民局にて事前相談を受け付けます。
助成金説明会	11 月 21 日（火）、24 日（金）	助成金の趣旨や内容について説明を行います。
書面審査	1 月	公開プレゼンテーション審査に進む団体を選考します。
公開プレゼンテーション審査	2 月 20 日（水）	書面審査で選考された団体に対し、公開でプレゼンテーション審査を行います。これらを踏まえ、委員会で助成金を支出することが適切な団体を審査します。
選考結果通知	3 月	委員会での審査を踏まえ、市長から選考結果を通知します。

(2) 協働契約（条例第12条）の理解を促進する取組（協働契約ハンドブック）

ア 協働契約ハンドブックに関する検討会の開催

協働契約に携わったことのある市民、市職員で構成する検討会をこれまで3回開催しました。この検討会でいただいたご意見を踏まえ、横浜市市民活動支援センターと市民局でハンドブック素案を作成しました。

【資料8-3】ハンドブック素案

【検討会委員】

(敬称略・五十音順)

	所属・氏名	区分
1	NPO 法人夢・コミュニティ・ネットワーク理事長 時任 和子	市民委員
2	NPO 法人くみんネットワークとつか職員 中嶋 伴子	
3	NPO 法人びーのびーの理事／新しい協働を考える会 原 美紀	
4	戸塚区地域振興課 安藤 晋也	市職員委員
5	こども青少年局子育て支援課 成田 萌子	
6	金沢区地域振興課地域力推進担当 山村 拓未	

イ 協働契約ハンドブック素案に対する意見照会（予定）

ハンドブックが協働契約を締結している現場においてより参考となるものになるよう、ハンドブック素案に対して広くご意見をお聴きする機会を作ります。

<企画案>

① アンケート調査

【対象】

28年度に協働契約を締結した団体と行政所管課（団体：43団体、所管課：40課 予定）

【調査項目】

- ・ハンドブック素案に対する意見
- ・協働契約に関しての気になる点、工夫している点 など

【実施時期】

10月

② ワークショップ（意見交換会）

【対象】

協働契約を締結したことがある団体、興味がある方

【内容】

ラウンドテーブル方式（3～4人のグループ）とし、「協働契約」をテーマに意見交換

【実施時期】

11月～12月上旬

これらの意見照会や検討会でのご意見を踏まえ、ハンドブックは1月頃の完成を目指して取り組んでいきます。